

目的 沖縄でマブヤーウーと呼ばれている背守りは、日本本土の背守りと同じ目的で付けられているのかを調べると同時に、マブヤーウーの形、着装の時期などを考察する。

方法 実物5点(京都の背守り4点、沖縄のマブヤーウー1点)を調査し、那覇市において聞き取り調査をおこなった。その他文献資料もあわせて検討をおこなった。

結果 マブヤーウーは魔よけのお守りのために付けられていた。それは、一ツ身だけでなく、四ツ身にも付けられていた。付け方には、①赤色の糸の房を平行にたらす、②糸糸で縫い飾りをする、③布でちようちよやリボン、桃などを形どりに縫い付けるなどの方法があった。位置はほとんど背の衿から少し下ったところだが、一部では衿の表や裏に付けるというのもあった。

日本本土の背守りと比較した場合、目的は同じであるが、着装の時期に若干違いがある。①の房をたらす方法は、針目の刺し方、房のたらし方に大きな違いがあり、これは沖縄独特の形であることがわかった。

また、房をたらす形が地方では見られないところから、それは王府のあった首里を中心にしておこなわれていたものだと考えられる。